

学年	教科等	単元名	日時
第3学年	国語科	物語のしかけのおもしろさをつたえ合おう (教材：ゆうすげ村の小さな旅館—ウサギのダイコン) (第7時)	令和8年2月6日(金)

### 1 本時の目標

「クマの風船」を読んで理解したことに基づいて、熊井さんがクマであることが分かる仕掛けについての感想や考えをもつことができる。

### 2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ウサギのダイコン」の1番の仕掛け</li> <li>○ 学習問題</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>熊井さんがクマであることが分かる1番の仕掛けは、何だろう。</p> </div> <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「クマの風船」の1番の仕掛け (学習前の考え) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「熊井さんという名前だと思います。なぜかといと、『ウサギのダイコン』でも、ウサギに似た宇佐美という名前が出てきたからです。」 等</li> </ul> </li> <li>○ 対話の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の考えやその理由を集めるための対話</li> <li>・ 考えをより深めるための対話</li> </ul> </li> </ul> <p>3 熊井さんがクマであることが分かる仕掛けについての考えを、仲間と伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見付けた仕掛け (個別での対話)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: 私は、熊井さんという名前が1番の仕掛けだと思うよ。なぜかといと、『ウサギのダイコン』でもウサギに似た宇佐美という名前が出てきたからだよ。</p> <p>B: 僕は、風呂敷包みだと思うな。風船に映ったクマのそばに、風呂敷包みが置いてあったからだよ。</p> <p>A: なるほどね。それには気付かなかったよ。</p> <p>B: Aさんの考えも分かるな。「ウサギのダイコン」でも名前が仕掛けになっていたね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吟味した仕掛け (グループでの対話)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C: 私は、風呂敷包みが1番の仕掛けだと思う。つぼみさんは、クマの近くにあった風呂敷包みを見て、「やっぱり、私が思ったとおり、熊井さんは……。」と言っているからだよ。</p> <p>A: さっきBさんも同じことを言っていたよ。私は、名前が1番の仕掛けだと思うの。「やっぱり、私が思ったとおり」というのは、風呂敷包みを見る前から気付いていたと思うな。</p> <p>D: そうかな。「やっぱり」という言葉で、熊井さんはクマだということが確かになったと僕は思うよ。</p> <p>A: そっか。つぼみさんはここで確かになったんだね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体の考え</li> </ul> <p>4 話し合ったことを基に、「クマの風船」の仕掛けについてまとめる。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「クマの風船」の1番の仕掛け (学習後の考え)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 熊井さんがクマだと分かる1番の仕掛けは、風呂敷包みです。なぜかといと、つぼみさんはクマの近くにあった風呂敷包みを見て、「やっぱり、…」と言っていたからです。</p> </div> <p>5 本時の学習をグループでふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 変容のきっかけ <ul style="list-style-type: none"> <li>・「最初は、名前だと思っていたけれど、Dさんのやっぱりという言葉聞いて、なるほどと思いました。」 等</li> </ul> </li> </ul>	<p>○ 「ウサギのダイコン」で見付けた仕掛けを確認し、「クマの風船」に出てくる熊井さんの挿絵を提示することで、前時に見付けた熊井さんの正体が分かる仕掛けを想起することができるようにする。</p> <p>○ 既に仕掛けを見付けている子どもの姿を紹介した後に、見付けた仕掛けのなかで、つぼみさんにとっての1番の仕掛けは何かを問うことで、本時の問題意識をもつことができるようにする。</p> <p>○ 個別での対話はより多くの仲間の考えやその理由を集めるための対話、グループでの対話は仕掛けについての考えをより深めるための対話であることを確認することで、目的をもって対話できるようにする。</p> <p>○ 個別での対話後にグループでの対話の場を設定することで、仲間から得た多様な考えやその理由を伝え合ったり、解決できなかった仲間の考えに対する疑問を、グループで解決したりできるようにする。</p> <p>○ 考えの変容や、仲間の考えに納得する様子が見られた際には、適宜、対話の内容や考えを整理することで、仲間との対話を想起し、つぼみさんにとっての1番の仕掛けについて吟味することができるようにする。</p> <p>○ 全体で考えを出し合う際には、出された仕掛けとその理由を黒板上に整理し、可視化することで、自分の考えと仲間の考えとを比較し、違いに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 学習後の考えを書く際には、仲間や家族も「なるほど」という理由になっていることを確認するよう伝えることで、相手が納得するという視点で、再度自分の考えを見つめ直すことができるようにする。</p> <p>○ 学習前後の考えが隣り合う学習プリントを準備することで、「クマの風船」の仕掛けについての自分の考えを比較し、変容に気付けるようにする。</p> <p>○ 仕掛けに関する考えの変容や、理由の深まりが見られた子どもに、納得した仲間の考えや言葉について問うことで、自分が納得した仕掛けを想起し、変容のきっかけが叙述にあることに気付けるようにする。</p>

### 3 本時の評価規準

「クマの風船」を読んで理解したことに基づいて、熊井さんがクマであることが分かる仕掛けについての感想や考えをもっている。  
(思考・判断・表現)【記述分析】

### 4 板書



### 5 指導講評

#### 宮崎県教育庁 義務教育課 吉田 健太郎 指導主事

- 授業後、「今日学んだことは何ですか。」という問いで、子どもたちにインタビューを行った。「仕掛けについて自分で考え、それを文章に表すことができた。」「一番の仕掛けがより詳しく分かるようになった。」という発言が見られた。これらの発言から、子どもたちが学習中に得た気付きや変容を、自分の言葉で捉えようとしている様子が伺えた。ふりかえりを毎回することの難しさがあることが協議のなかで出てきていたが、ふりかえりを蓄積し、単元末や内容のまとめりごとに改めて想起することで、子どもたちなりに学びとはどのようなことなのだろうと考えるようになる。
- 「クマの風船」を読んで、理解したことに基づいて、熊井さんが熊であることが分かる仕掛けについての感想や考えをもつことができることを目標としていた。熊井さんが熊であることが分かる一番の仕掛けについて学習問題に設定し、叙述に注目させながら学習問題の解決を図る授業であった。教材の内容理解を中心とした、教科書を学ぶのではなく、教材をとおして単元の目標を達成する教科書で学ぶ国語科の学習になっていた。仲間との対話を言葉の力の自覚へとつなげる教師のかかわり方として、これまでの考えと授業後の考えを比べるようにしていた。
- 今回の授業は、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」を主な評価の観点としていた。しかし、実際の授業場面では「知識・技能」にかかわる言葉の高まりも明確に見られた。評価の観点との関係において、こうした学びをどのように見取り、価値付けていくかが今後の課題である。

### 6 考察

#### 【研究内容1：仲間との対話を生み出す学習形態の工夫】

個別での対話からグループでの対話の場を設定した。個人で多くの考えを集めたうえで、グループでの対話を取り入れることで、集めた仲間の考えを基に自分の考えを伝えることができたと考えたからである。子どもの対話の様子を見ると、1往復半以上の対話をすることができた。特に、グループでの対話では、「でも、私は～さんの考えがよいと思った」と発言する子どもの姿が見られた。これは、個別での対話で集めた仲間の考えを基に自分の考えを改めて見つめ直している姿であると考えられる。一方で、対話の内容の妥当性については、検討の余地がある。子どもがより考えを伝えやすい学習形態を考える必要がある。

#### 【研究内容2：仲間との対話を言葉の力の自覚につなげる教師のかかわり方】

第3学年という発達の段階を踏まえ、段階的に発問を行った。教師が発問することによって、「考えが変わった」や「理由が増えた」、「変わらないけれど、自信が付いた」等の発言が見られた。また、考えが全く変わらなかった子どもに、「なぜ変わらなかったのか」と問うたところ、「同じ作者だから、今回もやっぱり名前に仕掛けがあると思った」と答えた。この子どもは、グループでの対話における仲間の考えにあった「同じ作者」という言葉によって、自分の考えが強化されていたようだ。一方で、「～さんの～という考え」や「教科書の～という言葉」等、考えの変容のきっかけとなった言葉に目を向けさせることは依然として難しい。言葉に着目させるふりかえりについては、今後も意識して取り組んでいく必要がある。